

## 山梨県産杉板による焼杉ワークショップを開催しました

2026 年 1 月 31 日、山梨県木材協会主催による「山梨県産杉板 焼杉ワークショップ」を、山梨県森林公園「金川の森」にて開催しました。

当日は、山梨県立甲府工業高等学校の学生をはじめ、山梨県木造住宅協会会員の設計事務所の所員など約 30 名が参加し、山梨県産杉板を用いて、伝統技法「焼杉」の製作を体験しました。

ワークショップでは、一級建築士の曾根拓也氏と坂本達典氏を講師に迎え、焼杉の製作方法や特徴、耐久性、木材利用の促進につながる効果などについて講義を行いました。

焼杉は、木材の表面を炭化させることで腐朽菌や水分の侵入を抑え、木材の耐久性を高める伝統技法です。近年では、高い耐久性に加え、自然素材で環境負荷が小さい外壁材としても注目されており、現代建築への採用事例も増えています。

講義後は、参加者が 3～4 人ずつの 8 チームに分かれ、実際に焼杉づくりを体験しました。今回は「三角焼き」と呼ばれる方法を採用し、3 枚の杉板を三角形に組んでわら縄で固定し、筒状にした内部へ着火。煙突効果を利用して板の表面を均一に炭化させる伝統的な方法で製作を行いました。

約 3 時間の作業を通じて、各チーム約 25 枚、合計約 200 枚の焼杉が完成しました。参加者からは、「実際に焼杉を製作でき、貴重な経験になった」「建築で使われる材料を自分の手で作る楽しさを感じた」「今後、自分の設計にも取り入れてみたい」といった感想が寄せられ、焼杉への理解と関心を深める機会となりました。

完成した焼杉は、山梨県富士吉田市に建設された一棟貸し宿泊施設「FUJI VIEW STAY 木座 MOKUZA」の外壁材として活用されました。その後、ワークショップ参加者を対象に完成見学会も開催し、自ら製作した焼杉が建築物の一部として使われている様子を実際に見学しました。

今回のワークショップは、山梨県産木材の利用促進と、地域材や伝統技術への理解を深める貴重な機会となりました。今後も、木材の魅力を広く発信し、地域材の活用拡大につながる取り組みを継続してまいります。



焼杉についての講義風景



3枚を筒状に束ねた杉板に火をつける様子



焼杉ワークショップの風景



完成した焼杉



制作した焼杉は宿泊施設「FUJI VIEW STAY 木座 MOKUZA」の外壁に活用